

※ここからは『Z Study 解答用紙編』の国語「評論2 / 用言1 / 訓読2」2枚目に「ご記入ください」。

二

【二】 次の(1)～(5)について、傍線部の動詞の活用の種類を例にならつて記せ。
(各3点)

例 走り ↓ ラ行四段活用

(1) 抜き取りである髪とを奪ひ取りて、おり走りて逃げていにけり。

『今昔物語集』

(2) もとより友とする人ひとりふたりして行きけり。
『伊勢物語』

(3) 神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に訪ね入ることばべりしに……
『徒然草』

(4) 黒き衣着たる人、おなじやうなるが五人、おのおの十貫づつ持ちて、来たりつる。
『宇治拾遺物語』

(5) 太政大臣の尻は蹴るとも、この殿の牛飼に手触れてむや。
『落窪物語』

【二】 次の文章を読み、あとの問に答えよ。

* 天竺(てんぢく)に一人の国王おはしき。金を重き宝(おぼ)と思すゆゑに、一国の金をたづね(x)もとめて、官庫(くわんこ)にをさめたくはへ給ふ。これ、* 後世(ごせ)の資糧(しりやう)のためなり。その国に一人の長者(ちやうじや)あり。金を多く持(a)ちたり。長者死去の後、子息らに告(b)げて、「父の長者のもとに金多くあるよし聞こし召す。すみやかに(y)たてまつるべし」といふ。* 宣旨(せんじ)下されたりければ、長者の子息ら申していはく、「父の長者、金三千両持ちて侍りし、後世の資糧のために棺(くわん)に入れ、墓にうづみたる」よしを* 奏しければ、長者の子息ら偽り申したんめりとて、官使(くわんし)をつかして墓をおこして見せ給ふに、三千両の金、すなはち(c)うせ(c)ずしてあり。国王、「我、金を官庫に集(d)むるは後世の資糧のためなり。長者、資糧のために棺(e)に入るといへども、資糧なる事なし。我、金をもて後世の資糧とする事、せじ」とて、おのおの金の主に返し与へ給ふ。

『宝物集』

注 * 天竺＝インド。

* 後世＝死後の世界。

* 資糧＝財産。

* 宣旨＝国王からの命令。

* 奏しければ＝申し上げると。

* せじ＝やめよう。

問一 傍線(a)～(e)の動詞を例にならって文法的に説明せよ。(各5点)

例 咲く ↓ カ行四段活用動詞「咲く」の終止形

問二 傍線(x)(y)の動詞と活用の種類が同じものを次の傍線をつけた語の中から一つずつ選び、それぞれ記号を記せ。(各5点)

- | | | | | | | |
|-----|---|------|---|-------|---|--------|
| (x) | ア | 読みけり | イ | 試みるなり | ウ | かへりみたり |
| | エ | 編むこと | オ | 攻めよ | | |
| (y) | ア | 蹴るべし | イ | 乗れども | ウ | 過ぐるなり |
| | エ | 射るとき | オ | 下りず | | |

問題

三二

問一 次の(1)～(5)の文の傍線部の謙讓の動詞について、ここでの意味を記せ(終止形の形で答えること)。(各3点)

(1) (帝みかど)かしくき仰おほせ言ことを、たびたび承うけりながら、
『源氏物語』

(2) 御ごとぶらひにもままうでざりけるに、
『源氏物語』

(3) 葉はの壺つぼに御文ごぶんそへて(帝みかどに)ままゐらす。
『竹取物語』

(4) 忠岑ただみねも禄ろく(＝ほうび)たまたまはりなどしけり。
『大和物語』

(5) 「夜よふけはべりぬ」ときこきこえたれど、なほ入いりたまはず。
『源氏物語』

問二 次の文を、敬語の動詞に注意して口語訳せよ。(5点)

大原おほはらにはおはしますとばかりは聞きままゐらすれど、

『建礼門院けんれいもんいん右京うきやうのだい大夫集』

【二】 次の文章を読み、あとの問に答えよ。

* 帝、* おりゐたまひて、またの年の秋、御髪おろしたまひて、ところどころ * 山ぶみしたまひて行ひたまひけり。備前の * 掾にて、橘良利と言ひける人、うち内におはしましける時、殿上にさぶらひける、御髪おろしたまひければ、やがて御供に頭おろしてけり。人にも知られたまはで歩きたまうける御供に、これなむ(1)おくれたてまつらでさぶらひける。「かかる御歩きしたまふ、いとあしきことなる」とて、内より、* 少将、中将、これかれ、さぶらへ」と(2)奉りたまひけれど、* 違ひつつ歩きたまふ。和泉の国にいたりたまひて、日根といふ所に **A** 夜あり。いと心細うかすかにて **A** ことを思ひつつ、いと悲しかりけり。さて、「『日根』といふことを歌によめ」とおほせごとありければ、この良利 * だんとく 大徳、

* ふるさとのたびねの夢に見えつるは恨みやすらむまとはねば

(「宮中」の人々)がこの日根で見た旅寝の夢に現れたのは、「私

のこを」恨んでいるからなのだろうか。「旅に出てから」一度

も「宮中を」訪れていないから

とありけるに、みな人泣きて、え詠まずなりにけり。その名をなむ寛蓮大徳と言ひて、後まで **B** けり。『大和物語』

注 * 帝うた宇多天皇。

* おりゐたまひて退位なさて。

* 山ぶみお寺を回ること。

* 掾役職名。守・介すけにつぐ三等官。

* 内うち宮中。

* 少将、中将、これかれ、さぶらへ少将、中将、誰それが、お仕え申

15

10

5

し上げよ。

* 違ひつつ歩きたまふ予定などをわざと変えながら歩き回りなされる。

* 大徳高僧の敬称。

* ふるさとなじみの土地・故郷などが本来の意味だが、ここではなじみの地である「宮中」の意。

問一 傍線(1)を口語訳せよ。(6点)

問二 傍線(2)について説明した次の文章の **I** ~ **IV** に最適なものをそれぞれア~コの中から選び、記号を記せ。(各4点)

この「奉り」は **I** 語である。「奉り」のもっとも基本的な意味は **II** であるが、この場合は、少将や中将などを **III** のために **IV** ことを指していると解釈するとわかりやすい。

- | | | | |
|----------|----------|---------|---------|
| ア 尊敬 | イ 謙譲 | ウ 丁寧 | エ 天皇のお供 |
| オ 天皇のご病気 | カ 天皇のご依頼 | キ うかがう | |
| ク 差し上げる | ケ 派遣いたす | コ お供いたす | |

問三 **A**・**B** (Aは二箇所ある) に最適な動詞をそれぞれ次の中から選び、必要に応じて適切な活用形に直して記せ。(各4点)

- 「おはします きこしめす さぶらふ まゐらす」

二

解答

問一 (1) お聞きする (2) 参上する (3) 差し上げる

(4) いただく (5) 申し上げる

問二 大原にはおいでになるとだけは聞き申し上げるけれど、

解説

問一 謙譲の動詞に関する設問である。

傍線部の謙譲の動詞の意味を確かめよう。知らないものは辞書や参考書で調べてほしい。

(1) 「承り(「承る」の連用形)」は、動詞「聞く」の謙譲語。〈お聞きする〉の意。

(2) 「まうで(「まうづ」の未然形)」は、動詞「行く・来」の謙譲語。〈参上する〉の意。

(3) 「まるらす」は、動詞「与ふ・授く」の謙譲語。〈差し上げる〉の意。

(4) 「たまはり(「たまはる」の連用形)」は、動詞「受く」の謙譲語。〈いただく〉の意。

(5) 「きこえ(「きこゆ」の連用形)」は、動詞「言ふ」の謙譲語。〈申し上げる〉の意。

問二 含まれている敬語の動詞は、次の二つである。

・おはします↓〈いらっしゃる・おいでになる〉の意味をもつ、尊敬の動詞。

・まゐらすれ(「まゐらす」の已然形) ↓直前の動詞(ここでは「聞き」)に付いて、〈……し申し上げる……して差し上げる〉の意味を添える謙譲の補助動詞。

敬語の動詞はとくに慎重に訳す。

なお、文末の「ど」は、〈〜けれど〉という意味を表す逆接の接続助詞である。

口語訳

問一 (1) (帝の) 恐れ多いお言葉を、何度もお聞きしながら、

(2) お見舞いにも参上しなかったが、

(3) 葉の壺にお手紙を添えて(帝に) 差し上げる。

(4) 忠岑もほうびをいただきなりました。

(5) 「夜がふけました」と申し上げたけれども、やはりお入りにならない。

問二 解答参照。

語句チェック

かしこし……①恐れ多い・もったいない。②優れている・すばらしい。

なほ……①依然として。②それでもやはり。③さらに・ますます。

二二

解答

問一 遅れ申し上げないでおそばにお仕えた

問二 I イ II ク III エ IV ケ

問三 A おはします B さぶらひ

解説

問一 傍線部は次の五つの単語から成っている。

- ・ おくれ↓動詞「おくる」の連用形。(①遅くなる、②ほかのものより劣る、③取り残される、④先立たれる)の意味があるが、ここでは①の意味。天皇のお供をしている橘良利が天皇から遅れ、天皇のそばを離れてしまうことを指している。
- ・ たてまつら↓「たてまつる」の未然形。直前に動詞があるので、謙譲の補助動詞で、(…申し上げる)の意味となる。
- ・ ↓打消接続の接続助詞。(…ないで)の意味。
- ・ さぶらひ↓謙譲の動詞「さぶらふ」の連用形。(おそばにお仕える・伺候する)の意味である。ここでは、橘良利が天皇のお供をしていることを指して言う。

- ・ ける↓過去の助動詞「けり」の連体形。傍線部の直前の係助詞「なむ」の結びとなっている。

謙譲語の訳の中には日常あまり使わない訳語が多く、とまどうかも知れないが、口語訳の際には、基本的な意味をしっかりと押さえたいうえで、より自然な訳出になるよう工夫してほしい。

問二 I IIは基本事項。Iはイ「謙譲」、IIはク「差し上げる」であることはわかるであろう。

III IVを考えるためには、ここまでのあらすじを確かめる必要がある。

問題文のここを見よう！

- ・ 帝、おりあたまひて、またの年の秋、御髪おろしたまひて、ところどころ山ぶみしたまひて行ひたまひけり。
- ↓天皇が退位なさって、翌年の秋、出家なさり、(内緒で)あちこちの寺を回って仏道修行をなさった。
- ・ 備前の掾にて、橘良利と言ひける人……これなむおくれたてまつらでさぶらひける。
- ↓備前の掾で、橘良利と言った人が……(退位した天皇に)遅れ申し上げないでお仕えしていた。
- ・ 内より、「少将、中将、これかれ、さぶらへ」とて奉りたまひけれど……
- ↓宮中(「新しい天皇」)から、「少将、中将、誰それが、お仕え申し上げよ(「お供をせよ」)と(命令があつて)「差し上げなされた」が……

このように見てくると、この「差し上げる」は、出家した天皇(院)のお供として、橘良利以外に、「少将、中将、誰それ」を院のもとに派遣することを指すと理解できる。「奉り」が謙譲語であることに配慮すれば、「派遣申し上げる・派遣いたす」のような訳出がベストとなろう。

問三 まず、選択肢の敬語動詞の意味・用法を確かめておこう。

☑ 語句チェック

おはします……①いらっしやる・おいでになる(尊敬の動詞)

②お——になる・お——ていらっしやる

(尊敬の補助動詞)

きこしめす……①お聞きになる(尊敬の動詞)

②召し上がる(尊敬の動詞)

さぶらふ……①おそばに控える(謙譲の動詞)

まぬらす……①差し上げる(謙譲の動詞)

②——し申し上げる(謙譲の補助動詞)

Aの部分の主語が「院(宇多天皇)」であるから、尊敬語が使われるはず。ここでは「おはします」がふさわしい。また、Bの部分は「橘良利≡寛蓮大徳」が主語であるから、謙譲語が使われるはず。ここでは、「さぶらふ」があてはまる。

口語訳

宇多天皇が、退位なさって、翌年の秋、出家なさって、あちこちお寺をおまわりになって仏道修行をなさった。備前の国の掾で、橘良利と言った人が、(天皇が)宮中にいらっしやったとき(≡退位なさる前)は、殿上人としてお仕えしていたが、(天皇が)出家なさったので、そのままお供として(良利も)出家してしまった。(院が)誰にも知られなさないで(山中を)お歩きになったお供に、橘良利は遅れ申し上げないでおそばにお仕えした。「このようなあちこちのお寺をお回りになるのは、たいへん不都合なことである」と言って、宮中(≡新しい天皇)から、

「少将、中将、誰それが、お仕え申し上げよ(≡お供をせよ)」と命じて、(少将、中将などを)派遣いたしなさったが、(院は)予定などをわざと変えながら歩き回りなさる。和泉の国に至りなさって、日根というところにおいてになる夜があった。(院が)たいそう心細くもの寂しくていらっしやることを思いながら、(良利は)たいそう悲しかった。そうしているとき、(院から)「『日根』ということを歌に詠め」とご命令があったので、この良利大徳は、

ふるさとの……(宮中(の人々)が、この日根で見た旅寝の夢に現れたのは、(私のことを)恨んでいるからなのだろうか。(旅に出るから)一度も(宮中を)訪れていないから)

と詠んだので、人は皆泣いて、(その後歌を)詠めなくなってしまった。(良利は、出家後の)その名を寛蓮大徳といって、後々まで(院に)お仕え申し上げた。

☑ 語句チェック

やがて……①そのまま。②すぐに。③すなわち。

あし……悪い・ひどい。

え——ず……——できない。